



現在の本社・工場（埼玉県和光市）



設立時。25年前の研究室



「乳酸菌生産物質」の歴史が解る著書

光英科学研究所

創業50周年、設立25周年の節目に 「乳酸菌生産物質」の歴史と未来を語る

今年4月で創業50周年、法人設立25周年を迎える株式会社光英科学研究所の村田公英社長が、「乳酸菌生産物質」に出会ったのは8歳の頃、戦後間もない1948年の事だ。当時、「大谷光瑞農芸化学研究所」が開発した乳酸菌発酵代謝物質「ステイルヤング」の拡販員を務めていた母親の「大変体に良いから」との勧め

で飲んだのが始まりだ。

以来、「ステイルヤング」を飲み続けすくすくと育った村田社長は、子供の頃から興味のある電子工学系の専門学校に進むが、卒業後は母親の「世の中の役に立つ仕事だから」との強い説得で「大谷光瑞農芸化学研究所」に入所、「乳酸菌生産物質」の生みの親である正垣義氏に師事し、乳酸菌の培養技術を学ぶ人生が始まることになる。

ところが入所10年後の69年4月、同研究所の経営が行き詰まり、正垣氏より「乳酸菌生産物質」の灯を消さないために光英科学研究所の名称と共にその研究・製造・販売が、当時正垣氏の右腕だった



村田 公英 社長

加速する原料輸出。世界の「乳酸菌生産物質」へ

そして25年後の94年、大きなチャンスが訪れる。ある大手健康食品メーカーが「乳酸菌生産物質」の効用に着目。毎月相当量の原料購入を約束してくれたのだ。そこで村田社長は23年間勤めた無線メーカーを退職、金廣名誉会長と共に法人化を果たすことになる。村田社長53歳の頃の事だ。

以来紆余曲折はありなが

らも、全国的販売ネットワークを通じて普及が進んできた「乳酸菌生産物質」は、現在では化粧品原料としてもフランスの商社を経由して中国、欧州、中南米など世界に大量に輸出されている。

メタボローム解析でも、GABA始めイソフラボン、オルニチン、レスベラトロール等、352種の発酵代謝物質が特定されており、その作用機序の研究論文が、城西大学薬学部との共同研究の成果として、世界的権威の海外学術誌に掲載され、大きな話題を呼んでいる。

やがて海外大手企業からの逆輸入で「乳酸菌生産物質」配合のサプリメントや化粧品がマーケットを賑わすかも知れない。

（木）

「会社データ」

本社 埼玉県和光市新倉5-1-25

☎048-467-3345

創業 1969年4月

資本金 1000万円

事業内容 Ⅱ乳酸菌生産物質の製造・販売、研究・開発

<http://www.koei-science.com>